

緑の傍で、自然と共生可能な社会へ

安全な野菜づくり、環境づくりで
農家をサポートする商品開発

環境



特許取得の「ロッキイ」



稼働中の自動水質浄化システム
「ユアロッキイ」

根域空気供給機「ロッキイ」



「ロッキイ」
未使用区



「ロッキイ」
使用区

設置も手軽、動力いらず。
農作物の生育を促進します

「林学科」を卒業したこともあり、森林の保護や自然環境に対してお役に立ちたいと考えた中山賀央代表取締役社長が、環緑（杉並区和田、03-333811020、<http://www.canrock.jp>）を設立して16年。会社名からも、薬剤や化学物質に偏りすぎない、自然と共生可能な商品開発で緑に囲まれた暮らしを日々めざす経営方針が窺える。環境緑化や屋上緑化事業を経て、現在は「水づくり、土づくり、種づくり」を通じて農家をサポートできるとような農業資材づくりを進めている。

同社では、マイクロバブルやナノバブルなど超微細な気泡をたく

さん含んだ水を独自の方法で安く簡単に製造し、農作物の根域に供給する機器「ロッキイ」を開発し、特許を取得している。農業分野を中心に利用範囲を広げ、「この機器を導入して生産される野菜や果実は栄養価が高く、収穫量も増大する」と農家からは大変喜ばれている。最近では、池、沼、湖などの水質浄化や家畜の飲用水にも使用され始めている。

その他、ゴルフ場のグリーンの芝生の輸入販売も手がけ、千葉県 の袖ヶ浦カンツリークラブを皮切りに著名なゴルフコースでの採用実績を持つ。